

1 問題意識

高齢化社会の到来した現在における認知症医療については、かかりつけ医と専門医との適切な役割分担と密接な連携による早期における診断と治療あるいは早期の介入による介護予防のプログラムの開始がまず重要であり、さらにその後通常数年から時には10年以上に及んで継続する在宅あるいは施設における認知症患者の管理を行う上で、かかりつけ医、専門医、ケアマネージャー、地域包括支援センター、介護サービス事業所、民生委員、行政などの総合的な支援体制の構築が早急に求められている。またかかりつけ医として認知症医療を行う上においては医療や介護の提供に関するのみならず、早期発見による虐待の防止や認知症の診断や、事業者への相談およびアドバイスなどを行うこと通して認知症患者の権利擁護にかかわることなども当然必要とされてきている。

2 四日市地区認知症支援総合ネットワークの取り組み

総合的、包括的な認知症患者および家族の支援体制を構築していく上で重要でありその核となるのは各地域における主に病院の専門医と、認知症の最初の窓口である可能性が高いかかりつけ医の連携である。数年前より市内の複数の病院で“物忘れ外来”の設置が行われ、また主にそれらの病院の専門医を講師として、認知症対応力向上に向けた研修を行ってきた開業医（かかりつけ医）のグループが中心となって、地区医師会と連携を取りながら以下の取り組みを進めてきた。

（1）かかりつけ医の認知症対応力向上を目指した研修

（2）認知症連携パスの作成と運用を通じた病院とかかりつけ医の協力体制の構築

（3）市民公開講座の開催

（1）かかりつけ医の認知症対応力向上を目指した研修について

通常かかりつけ医は認知症の診断や治療を専門領域とする神経内科医あるいは精神科医でない場合が多く、早期の症例やうつやせん妄など鑑別に苦慮する場合もあるほか進行例においても周辺症状が出現した場合への対応など家族とともに苦慮する局面にも少なからず遭遇する。その中でかかりつけ医としての対応力向上を目指した各自の自己研鑽のほか、専門医の指導を中心とした研修が大きな意義を持つため、外来でかかりつけ医として認知症の診療にあたっている開業医の5～6名のグループで数年前から病院の専門医を中心に外部からの講師を招き認知症の診療についての勉強会を定期的に行っている。

（2）認知症連携パスの作成と運用を通じた病院とかかりつけ医の協力体制の構築

勉強会を重ねていく中で、病院には“物忘れ外来”が設置され、また時をほぼ同じくして地区医師会で、病院と診療所の連携をスムーズに行うために脳卒中や心筋梗塞などいくつかの主要な疾患についての“クリニカルパス”を作る作業を行うこととなり、そ

のリーダーが幹事の一人として加わっていたこともあり、専門医と幹事であるかかりつけ医が共同して数回の会合を通して病院やほかの地域のものも参考にしながら意見を調整して、地区医師会クリニカルパスの第一号である四日市医師会認知症クリニカルパスのひな型を作成した。(表1)

また同時に医師会員にクリニカルパスの運用のためのワーキンググループへの参加を呼び掛け、説明会を開催しクリニカルパスのひな形の説明と試験運用への協力を依頼した。またその後ワーキンググループ参加者を対象に認知症についての研修会をおこなった。

今後はワーキンググループ参加者によるクリニカルパスの試験的な運用を通して問題点を洗い出し、修正したうえで実際の利用に耐えるものにしていく予定である。パスの実際の運用に際しては、内容的な“縛り”や“規制”は一切加えず、かかりつけ医と専門医との間でやり取りする目安的なものあるいはチェックリスト的なものであり、実施した検査項目や認知症のテストなどについても施行の有無を含めてかかりつけ医の自由な裁量によるものであることとした。

また現在の幹事の診療所が当地域の医師会の地区を大きく分けた場合のそれぞれの地区に偶然分散していたためそれぞれを地区の幹事を“相談医”として割り振り、かかりつけ医と病院の専門医との間を双方向に橋渡しする、あるいはクリニカルパスの運用を補助する役割を持つこととした。当然それが一般医が直接病院の専門医と連絡を取り合うことを妨げるものではない。

また補足的ではあるが認知症に限らず当四日市医師会のクリニカルパスは特定の一病院とかかりつけ医との間で用いるものではなく、主要な病院ですべて共通である点が特長であり、複数の総合病院が存在する地域では将来的にはクリニカルパスは当地区同様共通のものになっていくのではないかと考えている。

(3) 市民公開講座の開催

認知症患者の家族にとってまず最初にどの時点においてどこの医療機関を受診するべきかというのは迷うところであり、また前述のごとく多くのかかりつけ医によっては厳密には“専門外”でもある。しかしながら居住地の近くにあり、本人の身体状況や家庭の状況について知識のあるかかりつけ医が認知症の診療の最初の窓口となるのはある意味当然のことであり、“迷ったらまずは早期にかかりつけ医に相談してください。診断や治療を行う上で必要な場合には病院の専門医と連携を取りながらきちんと診療していきますので安心してください。”というメッセージをかかりつけ医側から認知症の患者や家族に対して送る意味で、昨年から現在まで2回“認知症市民公開講座”を開催し、その中でメインである認知症の専門家(毎回外部より招聘)による講演のほかに病院とかかりつけ医の連携がどのように行われているかについての家族向けのできるだけやさしい説明を毎回必ず入れることとしている。また市民講座修了後は参加者にアンケートを行い、集計してその後の幹事会において今後の方針を決める上での参考としている。

3 課題、提言

初めに述べた認知症医療を中心とした、患者や家族に対する総合的な支援体制の構築に向けて、その核たるべきかかりつけ医と病院の連携について、我々の取り組みはクリニカルパスの作成や研修会、市民講座の開催などを通してまだようやくその緒に就いたばかりの段階である。かかりつけ医の認知症への対応力を向上させ、かかりつけ医と専門医の役割分担を適切に行うことにより、病院への認知症患者の過度の集中を避け専門医の負担を軽減することができれば、専門医がその専門性を生かしより早期の診断、MCI

や高次脳機能障害、鑑別困難例、重症例などの治療を従来よりもさらに重点的に行いうることが期待できる。

今後の方向性として、大きく 4 地区に分かれた幹事＝相談医が中心になってそれぞれの地区においてケアマネジャーや地域包括支援センターのスタッフなどと会合を持ちながら、その地区の実情にあった認知症患者や家族を支援する体制を整えていく方向で現在検討中である。まずは来年春に予定されている次回の市民公開講座修了後、参加した医療者、介護関係者で全体の会合を行い、その後地区別の会合を行ってそれぞれの顔合わせやその地区での問題点の討議あるいは最終目的である各地区における支援体制の構築に向けての取り組みの動きがその場でスタートしていくことを期待している。同様の試みは他府県でも行われておりそれぞれに成功例もあれば失敗例もあるようであり、双方の場合を参考にしながら 4 つの地区のそれぞれの実情にあった協力関係が多様な立場の間で構築できていけば、それほど長い期間を要さずともこの地域において有効でかつ継続性のある支援体制を作っていけるのではないかと考えている。

四日市医師会「認知症診断連絡表」(案)

患者氏名: _____ 性別: 男 / 女 診断: _____
 生年月日: _____年____月____日 年齢: _____歳

認知症スケール	改定 長谷川式 簡易知能評価 スケール	未 / 済	MMSE	未 / 済	その他の 認知症スケール	未 / 済
---------	---------------------------	-------	------	-------	-----------------	-------

※検査(認知症スケール等)を施行された場合は、検査結果のコピーも添えてご紹介下さい。

		かかりつけ医	紹介先施設				かかりつけ医	照会先施設
		紹介前	紹介時	再診時	結果	逆紹介時	経過観察	
		____月____日	____月____日	____月____日	____月____日	____月____日	____月____日	
血 液	血算	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
	血糖	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
	脂質	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
	甲状腺機能	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
	ビタミンB1	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
	ビタミンB12	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
画 像	CT	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
	MR	未 / 済	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常	未 / 済	未 / 済	
紹介先検査		VSRAD	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常		未 / 済	
		SPECT	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常		未 / 済	
		TPHA	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常		未 / 済	
		RPR	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常		未 / 済	
		脳波	未 / 済	未 / 済	正常 / 異常		未 / 済	

発症は_____頃です。 / 発症ははっきりしませんが、_____頃から明らかになってきました。

既往歴: 高血圧症(あり/なし)、糖尿病(あり/なし)、脳血管障害(あり/なし)

家族歴: 高血圧症(あり/なし)、糖尿病(あり/なし)、脳血管障害(あり/なし)、認知症(あり/なし)

認知症症状進行チェック表(案)

		確認する症状	年 月 日	年 月 日
時間や場所の見当識	1	年月日の感覚が不確か(だいたいわかる)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	季節や場所がわからないことがあるが、ヒントがあれば答えられる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	配偶者や子供の顔も判らなくなる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
会 話	1	日常の会話に困らない、知識も保たれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	必要なことは言うことができる。簡単な会話はわかる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	簡単な会話はわかるが、自分から何かを要求することはない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	簡単な会話もわからないが、気持ちを表現することはいくらかできる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	ごく簡単な会話も全く通じず、周囲との接触は全くできない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お風呂	1	自分でお風呂に入ることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	お風呂に入ることを忘れることがあるが、自分で体を洗うことや温度調節ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	手助けなしで、お風呂にきちんと入ることができない(お湯の温度や量の調節ができない、体をうまく洗えない)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
着 衣	1	自分で洋服を選び着ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	釣り合いの取れた服を揃えるなどの介助があれば、適切に服を着ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	手助けなしで、状況にあった服を選んで着ることができない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
トイ レ	1	一人でトイレをすませることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	トイレの水を流すのを忘れたり、きちんと拭くことを忘れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	尿失禁、便失禁するようになる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他の症状の確認項目		<input type="checkbox"/> 妄想・幻覚 <input type="checkbox"/> 興奮 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 介護への抵抗 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 妄想・幻覚 <input type="checkbox"/> 興奮 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 介護への抵抗 <input type="checkbox"/> その他	
介護者の方の印象		<input type="checkbox"/> 表情が悪くなった(穏やかになった) <input type="checkbox"/> 意欲が出てきた <input type="checkbox"/> 一度言った事を言う回数が増った	<input type="checkbox"/> 表情が悪くなった(穏やかになった) <input type="checkbox"/> 意欲が出てきた <input type="checkbox"/> 一度言った事を言う回数が増った	
備考(気付いた変化など)				